



みんなで消しました

～新百合ヶ丘駅周辺落書き消しに市民立ち上がる～



73名も参加しました

8月23日、新百合ヶ丘駅周辺の落書き消しを実施しました。33度近い猛暑にもかかわらず、幼稚園児から70代までの市民を始め、企業や行政関係者そして主催のあさお落書き消し隊（新百合ヶ丘駅周辺景観形成協議会と麻生まちづくり市民の会会員）の計73名もの参加がありました。

当日は先ず消し方の実演を見ていただいてから、さあ出発！ 昨年12月に消したあと再び落書きされたところがありました。6グループに分かれて熱心に消して回り、3時間後には見違えるようにきれいになりました。

ペンキや溶剤は行政から、調合の技術協力などは複数の企業から...と各方面からの支援を受けて、明るく美しいまちにするために立ち上がった市民の落書き消しは無事終了しました。

落書き消しのノウハウをまとめます

今回、町内の落書きを消すためにそのノウハウを学ぼうと参加したグループがありました。あさお落書き消し隊は活動の成果として落書き消しのノウハウをまとめ、落書きを消したいと考えていらっしゃる地域の皆さんに提供したいと考えています。

市民の手ですすめてまーす “まちづくり”

～ 「麻生まちづくり市民の会」の活動～

実践部会

道路・交通小委員会

岡上跨線橋及び併設歩道橋について、阿部市長から次のよう文書回答がありました。「整備着手の時期は未定ですが、事業化については検討します」「この道路の拡幅計画にあわせて、今後歩道の改善等について検討します」「歩道橋頂上部については、今年度実施する岡上跨線橋耐震補強工事にあわせて、滑り止め等の工事を行います」ということでした。会としては、しばらく進展状況を見守る予定です。

福祉・コミュニティ小委員会



8月16日(金)「防災を通じてつくる地域のつながり」をテーマに、第2回コミュニティフォーラムを開催しました。

講師の川崎市総務局危機管理室 石井宏之主幹に「川崎市の防災対策と自主防災」について話していただいた後、「阪神・淡路大震災の体験談」を麻生区在住、船橋佳子さんにうかがいました。「被災し家に閉じ込められた時外から近所の方が声をかけてくれ、やっと外に脱出できました。10年過ぎても被災時のショックは今も引きずっていて、地震のTVや映画は観られません」など。被災の衝撃は聴いた参加者の胸にズシンと響き痛みを感じ

ました。

緑・環境小委員会

- 1、あさお緑の保全市民ネットワークの設立と運営
川崎市の「かわさき緑の30プラン」改定に伴い、市民意見・要望を募集しているので、検討し提案する予定です。
- 2、公園緑地等の維持・管理活動
葉積緑地は地元の参加者も増え、8/21は作業終了後懇談会も実施しました。昨年に続いて今年も9月2日に、片平小学校3年生95名が清掃活動に参加しました。
- 3、球温暖化防止のための麻生区CO2削減宣言活動の実施。

パートナーシップ推進部会

新しい市民利用施設小委員会

「(仮称)新しい市民利用施設市民検討委員会」にパートナーシップ推進部会員は、この検討委員会をサポートするスタッフとして参加して来ました。来年1月からは運営方法の具体的な検討が開始されます。これまでのスタッフの活動が評価されて、今後は市民の会の活動の経験を活かせる形で検討にも参加ができるようになる予定です。

バス停位置改善小委員会

新百合ヶ丘駅前バスロータリーのバスを方向別に区分けし、最適な配置を提案し、利用者の利便性に供する目的で、パートナーシップ推進部会では「バス停位置改善」の小委員会を立ち上げ、9月1日に小田急バスに対して、バス停位置改善の提案趣旨説明を行いました。なお、この提案を推進するため、新百合ヶ丘のバスロータリーを利用する方を対象にアンケートを実施することにしました。

バックアップ部会

区民活動支援ルーム運営委員会

特別開室などの利用状況について、利用者を対象に5月に実施したアンケート調査をまとめ、7月30日に開催した「利用登録者の集い」でその結果と回答を報告しました。支援ルームも4年目に入り、当事者意識を持つ利用者が増えていることがアンケートからもよくわかり、共に支援ルームを育てていこうと運営委員一同再確認しました。

8月24日に第2回支援ルーム運営委員会を開催しました。同じ日に「区民活動支援ルームだより」16号を印刷、発送しました。16号でも「利用登録者の集い」とアンケート結果報告の特集にしました。

活動の場の確保と情報提供小委員会

市民活動が活発化すればするほど、活動の場の確保へのニーズが高まってきます。2年にわたって地道な調査活動を積み重ねてきた成果を「『市民活動の場』ご案内」として小冊子にまとめることになり、年内発行を目指して現在はその最終段階に入っています。小冊子は200部を作成。その内150部は調査に協力してくれた各施設に寄贈する予定です。

交流会・学習会などの企画・実行小委員会

達人シリーズ「組織運営の達人になろう」の第2回パネルディスカッション『運営組織のあり方を考える』を7月23日に開催しました。

パネリストは、宮前区の平瀬川流域まちづくり協議会事務局長・松井隆一さん、朗読ボランティア「さんざし」代表・武村桂子さん、木こりの会副代表・竹中司郎さん。それぞれの組織の特色、構成メンバー、そして工夫点などを話していただきましたが、町会・自治会や各種団体の参加を可能にする組織作りなど、次期組織を検討中の市民の会にとって参考になる事例も出て内容のある会になりました。

情報検討小委員会

前期「市民活動に役立つパソコン講座」体験コース(ワード)と体験コース(エクセル)は終了しました。エクセルは参加者全員がワードからの継続なので、進行がスムーズにいきました。

後期「市民活動に役立つパソコン講座」

1. はがき・デジカメ・プレゼン・コース(10月3日～11月14日 / 3回) 2. 初級ワードコース(11月22日～12月 / 5回) 3. 初級エクセルコース(平成18年1月～2月 / 5回)

麻生まちづくり学校

麻生まちづくり学校の第1回講座が、9月3日一般参加者18名に運営委員13名の計31名でスタートしました。

第1部は、都市計画マスタープラン(以下都市マス)麻生区構想区民提案作成の経緯 都市マス麻生区構想区民提案の概要 地域別まちづくり方針および区民提案の実現化方策 王禅寺公園地区・地区計画の4テーマについて、各担当委員が慣れないパソコンを懸命に操作しながら、映像に沿って説明しました。



第2部の意見交換は4グループに分かれ、本校で学びたいこと、分校で活動したいことをワークショップ方式で話し合いました。一般参加の皆さんによる報告はそれぞれ個性を出しながらも見事で会場から大きな拍手が沸きあがりました。

第2回講座10月19日「他都市類似活動」の視察を予定しています。

(仮称)新しい市民利用施設の区民提案を提出



武藤委員長から市長代理の区長に提出

昨年12月に発足した「(仮称)新しい市民利用施設市民検討委員会」では、本年6月までに10回の検討委員会を開催し、建物について区民提案の素案をまとめました。この素案について6月18日(土)にフォーラムを開催し、区民の方々と検討委員とで意見交換を行いました。

検討委員会ではこのフォーラムで出された意見を踏まえて再検討し、平成17年8月22日(月)麻生市民館会議室で、(仮称)新しい市民利用施設区民提案を市長代理の麻生区長に提出しました。

区民提案の概要

- 1、(仮称)新しい市民利用施設の基本理念
～このように使いたい～
 - 1) 麻生区民が自由に集まり、交わり、麻生区のコミュニティの核となる場
 - 2) 麻生区民がさまざまな活動を行い、そして活動を支援していく市民活動の拠点となる場
- 2、(仮称)新しい市民利用施設の整備方針
～このような機能を持たせます～
 - 1) 交流機能 サロン
 - 2) 市民活動支援機能 情報受発信 学習 支援 市民活動支援

<会議予定> 市民の会運営委員会、各部会は麻生区役所地域振興課事務局に連絡の上、どなたでも傍聴ができます
まちづくり市民の会運営委員会(2005年10月13日14:00から)
次期組織検討委員会(9月30日(金)10時から)(10月14日(金)10時から)
実践部会(2005年10月6日14:00から) 毎月第1木曜日)
パートナーシップ推進部会(2005年10月7日18:30から) 毎月第1金曜日)
バックアップ部会(2005年10月5日14:00から) 毎月第1水曜日)

編集後記 「(仮称)新しい市民利用施設」の区民提案がまとまり、8月22日、無事市長代理としての麻生区長に手渡されました。

麻生区に又一つコミュニティの空間が出来ます。『人と接する、そして理解し合い、連帯が芽生える』吹く風、虫の音に、秋の訪れと共に人間共和の実りを期待!!(岡島)

～このような部屋を用意します～

- 1) 主に交流機能として用意する部屋
- 2) 主に市民活動支援機能として用意する部屋
- 3) 管理等のための部屋

この提案をベースに川崎市は基本計画作成作業に着手し、検討委員会との意見交換を経て、12月には建物の基本計画が確定する予定です。また来年1月から運営方法の具体的な検討が開始されます。

市民の会次期組織中間報告書(案)まとまる

次期組織検討委員会

5月から検討を進めてきた次期組織検討委員会は、8月末、市民の会の評価・反省点・課題を整理した上で次期組織のあり方を中間報告書(案)としてまとめ、運営委員会に提出しました。

主な提案事項は次のとおりです。(1)次期組織は、現市民の会を継続し、名称は「(第2期)麻生まちづくり市民の会」とします。(2)次期組織は現市民の会同様、中間支援組織として位置づけ、その機能を一層強化します。(3)目的は「市民が主体的に住みよいまちづくりを進めていく活動の支援」とします。(4)次期組織は活動部門と運営部門で構成。活動部門はさらに現市民の会の機能別組織を維持して、支援活動部門と活動立ち上げ部門で構成します。

このあと、運営委員会の意見を踏まえ、12月の最終報告書作成に向けてさらに検討を進めていきます。